

お寄せいただいたご質問

Q. 高山さん こんにちは！ 本日はありがとうございます。

いつも高山さんのラジオ「オトナの部屋」楽しく聴いています。こどもの人権ということで質問ですが、高山さんはご自身の娘さんもお笑い芸人をされていますが、芸人になると初めて聞いたとき、どう思われましたか？ 娘さんにお笑いでアドバイスされることはありますか。

A. 娘が小学生の頃から共演する機会が多かったので、自然な流れで芸人になりました。芸人になって数年はいろいろアドバイスもしましたが、今はあえて私からは何も言わないようにしております。

Q. 高山さんに質問です。

19 歳から、お母さんのところで生活されたとのことですが、お父さんとのその後、どういったかたちで交流されていたのでしょうか。教えてください。

A. 父子家庭だったので、芸人になってからも父の住む実家には頻繁に帰っておりました。

Q. お母さんの話しはたくさんあったけど、お父さんの話しももう少し聞きたかった。小さな子ども 4 人を育てられたのはすごいと思う。

A. ありがとうございます。子ども 4 人を男手一つで育て上げた父を尊敬しております。

Q. 城東区での思い出の場所がありますか？ 子どもとは何歳ぐらいまでと思いますか？ 城東区の住みます芸人を知っていますか？

A. 高校 1 年生の頃、野球部仲間が仕事に住んでいたので、休みの日などはよく鳴野駅前で待ち合わせして自転車ですべてを散策してました。30 歳ぐらいまではまだまだ子どもだと思ってます。城東区住みます芸人さんとはお会いしたことがないですが、私の第二の故郷である城東区をさらに盛り上げていただきたいと思います。

Q. 高山さんの表現できるときと、できないときがあったと思います。変わったのは、友達やまわりの方の接点があったのではと思われます。

A. はい。友達や周りの接点がなかったら何も表現できない自分が長く続いたと思います。

Q. 82 歳になり、高山さんの良いお話し聞かせていただき良かったです。残りの人生に生かさせていただきます。

A. ありがとうございます。私も長生きするよう健康に気をつけて日々精進いたします。

Q. 手のひらの赤ちゃんの本買います。他の 2 冊は持っています。

A. 是非とも読んでください。ありがとうございます。

Q. 高山さま 私が結婚した年、サンテレビで上沼さんがなさっていた番組に河本さんが出てられ、その時に亡くなったと放送があり、びっくりしたのを覚えています。いろいろ大変なことを経験なさったことを聞き、最後は涙し

ました。どうぞこれからも、ご活躍ください。

A. はい。河もっちゃんのぶんも頑張ります。

Q. 高山さんが元漫才師とは思いませんでした。彼の言葉は苦勞しながら良い話を聞かせていただいて、有難うございました。

A. こちらこそ講演お聞きいただき感謝です。

Q. 今、中学校で PTA やっておりますが大阪の小学校中学校で登校拒否のお子さんが多すぎますがどうしてでしょうか？学校へ行くのがキライだけなんでしょうか？その辺も友達が多ければそんな事もなくなるのでしょうか？

A. 城東区では区内全小中学校に登校できるが教室に入ることができない、また再登校のきっかけとなる場とした学校内の居場所として「SSR（スクールサポートルーム）」を整備するとともに、不登校児童生徒を対象とした学校外の居場所として「JOTOぷらっと」を開放し、学習支援をはじめ家庭訪問、登校支援などの個別支援も行っています。「令和5年度 大阪市立学校における暴力行為・いじめ認知・不登校数」によると小学校の不登校数については2,227人、在籍比率が1.97となっています。全国の在籍比率が2.14のため小学校は全国比率と比べ低い状況です。他方、中学校は4,917人で在籍比率が9.61となっており、全国の在籍比率6.71と比べても高い状況となっています。不登校の原因は学校・家庭・勉強など様々な要因があり、また重なることもあるため特定することは困難ですが、本市では不登校児童生徒を支援するための各種取組や不登校の実態把握や分析を行い、子どもたちの将来における社会的自立をめざすことを目的に、多様な学校の設置や同校内に保護者サロンや学習動画コンテンツ配信などを行う登校支援室「なごみ」を設置するなど初期段階からの早期支援から多様な教育機会の確保など総合的な支援を行っています。

Q. 現在、イジメが問題視されていますが、各々の価値観が異なる訳ですから当たり前だと思います。私もイジメられました。しかし反面、助けてくれる友人もいました。イジメを無くすことも大事ですが、それを助けようとする事の方がもっと大事だと思います。この助けようとする気持ちを育むことこそ人として重要だと思いますが、よいヒントなり方法はありますか？

A. 城東区では令和2年に「いじめ撲滅宣言」を策定し、いじめ・不登校専用の電話・メール・窓口を区役所内に設置しています。本市では平成27年に「大阪市いじめ対策基本方針」を策定し、「いじめを受けた子どもの救済と尊厳」を最優先するという大阪市の基本理念を明らかにするとともに、いじめの未然防止や早期発見、いじめ事案の調査や早期対応に努めています。また、ご質問にある「助けようとする気持ちを育む」ため「いじめ（いのち）について考える日」を設定し、大阪市立のすべての小学校・中学校・義務教育学校の各校で、いじめの未然防止を推進するとともに、「いのち」の大切さの学びを深め、児童生徒の自分を大切にする心や他者への思いやりを育めるよう取り組んでいます。また学校の安心・安全のための「学校安心ルール」を各校で定め、子どもたちがしてはいけないことを自覚し相手のことを考えることができるよりよい学校づくりをめざしています。

Q. ヤングケアラーに対する具体的な支援策が見えない。今後、大阪ではどのような支援をしていくか教えてほしい。

A. 本市ではヤングケアラーに対する支援として各区役所への相談窓口の設置や、SNS 等での相談受付、オンラインサロンに参加して、同じ境遇のヤングケアラーと話ができるヤングケアラー寄り添い型相談支援事業や、外国語通訳派遣事業の実施のほかヤングケアラーの方がケースごとに利用できる支援や福祉サービスをご提供しております。また、ヤングケアラーの支援に向け、副市長をリーダーとするプロジェクトチーム（関係区長、福祉局長、健康局長、こども青少年局長及び教育次長）を設置し今後の支援のあり方・対策の方向性の検討をすすめております。

Q. 私の住む地域では子ども食堂等の活動があるのかないのかも存じ上げないのですが実際城東区（大阪市でも）内でどれくらい毎日食事ができないような子がいるのでしょうか？子どもと関わる仕事をしていますが、私の周りにはそれらしい子はいなくて、見えない所に存在するのかが気になっています。

A. 本市で把握しております情報は[令和 5 年度 子どもの生活に関する実態調査について](#)の中で全市版と城東区版でそれぞれの調査結果を公表しておりますのでご参照ください。ご質問のとおり見えない所に存在する貧困世帯をいかにセーフティネットで救済していくかはこれから解決していくべき課題と考えます。

Q. こどものプライバシーと地域や社会との取り組みのむずかしさ、貧困や問題を表に出さず活動するには？

A. ご質問のとおり社会構造の変化に伴い人と人とのつながりや地域コミュニティが希薄化し、周囲との交流がなく、社会的に孤立する傾向は子育て世帯や若者にも広がっています。社会的に孤立すると、必要な支援を届けることが難しくなることから、貧困が連鎖する要因ともなります。

本市では地域におけるつながりづくり、家庭・学校・地域の連携によるつながりづくり、相談や支援体制の充実など、学校園や地域、関係機関との密接な連携により、支援を必要とする世帯を発見し、必要な支援につなげ、こどもや青少年、保護者が地域で孤立することなく、安心して暮らすことができるよう支援しております。各地域において、こどもや青少年に関する課題を解決するため、様々な活動主体が取り組みを行っており、活動のさらなる活性化が図られるよう取り組みます。地域でのご活動にあたり難しさを感じた場合はお気軽に区役所にご相談ください。

Q. 高山さんの幼少期のようなつらい思いをさせない為に大人や周りはどうすればよいのか？

A. 前問のお答えと同様となりますが、地域におけるつながりづくり、家庭・学校・地域の連携によるつながりづくり、相談や支援体制の充実など、学校園や地域、関係機関との密接な連携により、支援を必要とする世帯を発見し、必要な支援につなげていくことが必要と考えます。

Q. 私もヤングケアラーと父から DV を受ける。困っている子どもを助ける市の対策を教えてください。

A. ヤングケアラーに対するお答えは上記のお答えをご参照ください。父からの DV との記載ですので、児童虐待についてお答えします。前問のお答えと一部重複しますが、まずは地域におけるつながりづくり、家庭・学校・地域の連携によるつながりづくり、相談や支援体制の充実など、学校園や地域、関係機関との密接な連携により、保護を必要とする世帯を早期発見することが重要と考えます。そのうえで、子どもへの虐待を発見した場合や、「虐待ではないかな？」と気になる子どもを発見された場合、『児童虐待ホットライン 0120-01-7285』（24 時間 365 日対応）に躊躇することなくお電話ください。（匿名でもかまいません。ご連絡いた

だいた方のプライバシーは守られます）。また各区保健福祉センターでも相談や情報提供を実施しています。

Q. 子ども時代に他の家庭とは違うと感じたとき、気持ちを立て直す方法が何かありましたか？

A. 会場で回答

Q. 高山さん、楽しいお話をありがとうございました。私も幼少期に両親が離別していたので、小中高の若い気持ちを思い出しました。相談ですが困っているような子どもたちに声をかけようとしても、おじさんの私だと不審者と思われそうで不安です。おじさんが子どもに話しかけても怪しく思われないコツは何かあるでしょうか。

A. 会場で回答

Q. 子どもは独立した1つの人格であると思いつつも、つい大人の論理を押し付けてしまうことが多いです。子どもの主体性・自主性を尊重してあげたいのですが、どういうことを心がけたらよいのでしょうか？

A. 会場で回答

※講演やシンポジウムの内容・趣旨に合致しない質問は掲載しておりません